

14

⑬日本国特許庁
公開特許公報

⑭特許出願公開
昭53—28778

⑮Int. Cl.²
D 06 H 5/00

識別記号

⑯日本分類
47 D 3
47 F 0

庁内整理番号
7425—35
7425—35

⑰公開 昭和53年(1978)3月17日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑱合成樹脂製ネットの接合方法

羽曳野市羽曳ヶ丘西2丁目2の
52

⑲特 願 昭51—102885

⑲出 願 人 永吉昭夫

⑳出 願 昭51(1976)8月27日

堺市宮山台1の2の1

㉑発 明 者 永吉昭夫

同 森井健治

堺市宮山台1の2の1

羽曳野市羽曳ヶ丘西2丁目2の

同

森井健治

52

明 細 書

1 発明の名称

合成樹脂製ネットの接合方法

2 特許請求の範囲

適宜形成される空隙上において、互いに接合すべき合成樹脂製ネットの各側端部を重ね合わせ、この重合部上から前記空隙内に充填接着剤を流し込み、前記重合部の上下両面に充填接着剤を盛上げた状態で固化して接合することを特徴とする合成樹脂製ネットの接合方法。

3 発明の詳細な説明

この本発明は、合成樹脂製ネット、特に接着剤により強固な接着が不能とされているポリエチレンその他オレフィン系樹脂からなるネットの接合に有用な接合方法に関する。

最近ヘドロ地などの埋立工事において、広幅かつ長尺の合成樹脂製ネットを用い、このネットを埋立地上に敷設して、該ネットを介して土砂を埋立てる工法が開発されたのであるが、このような用途に供するには多数ネットを強固に接合する必

要がある。ところで合成樹脂製ネットは、主にポリエチレンなどのオレフィン系樹脂から形成されているため、通常的手段では接着剤による強固な接合は不能である。然らば前記ネットを熱溶着もしくは針金などによる結着手段で接合することが考えられるが、熱溶着手段は工場においてはともかく、工事現場においてネットを長尺かつ広幅に接合するには不向きであり、また針金などによる結着手段ではネットを接合するのに長時間を要ししかも多数の作業人員を要する欠陥を有している。

また本発明者は、前記のごときネットの接合手段として、ネットを接合すべき部分の下面に接着剤と接着可能な塩化ビニールなどの薄板を敷設しネット上から薄板へとドーブセメントなどの充填接着剤を流し込み、該接着剤をネット上に盛上げた状態で前記薄板と接着一体化することにより、接着剤にてネットの各ストランドを包み込み、かつ接着剤を薄板にて固定して、ネットを強固に接合する手段を以前に開発提供したのである。ところがこの手段では、前記のごとき埋立工事現場に

においてネットの接合を行なうとき、薄板がづれたりして該板をネットを接合すべき部分に正確に位置させることが困難であり、しかも作業工数が複雑となって、工事現場での接合手段としては不向きであった。

そこで本発明は、工事現場などで最適な合成樹脂製ネットの接合方法を提供するものであって、ネットを重ね合わせてこの重合部に充填接着剤を流し込み、該接着剤を重合部の上下両面に盛上げた状態で固化することにより、接着剤にて重合部における各ネットのストランドを包み込み、つまり接着剤で各ネットのストランドの自由な移動を阻止して、各ネットを強固に接合させるようにしたものである。

さらに詳しくは、適宜形成される空隙上において、互いに接合すべき合成樹脂製ネットの各側端部を重ね合わせ、この重合部上から前記空隙内に充填接着剤を流し込み、前記重合部の上下両面に充填接着剤を盛上げた状態で固化して接合すべくしたものである。

る接着剤3の粘度が低い場合には容器から直接に流し込めばよく、また使用接着剤の粘度が高い場合には、ローラ或はヘラなどを用いて圧入させるか、もしくは接着剤をノズルから押出してこの圧力を利用して圧入させるようにしてもよい。

また本発明では前記の合枠4を用いることなく第2図に示す如く工事現場において地面上に溝5を掘り、この溝5上において各ネット1、2を重ね合わせ、以後は前記と同様にして各ネット1、2を接合してもよいのであり、この手段によれば合枠4が不要となるので、実際の作業上好都合となる。

更に本発明では、第3図に示す如く発泡体などからなる長尺の浮体6を用い、これの2個を適宜間隔をあけてヘドロ地の上に浮かせ、この各浮体6間において各ネット1、2を重ね合わせ、該重合部上から前記各浮体6とヘドロ地面とにより形成される空隙7に向けて接着剤3を流し込むようにしてもよく、この手段ではヘドロ地の上において直接ネット1、2の接合が可能となる。

次に本発明の詳細を図の実施例について説明する。先ず第1図において、1、2は互いに接合される合成樹脂製ネット、3はこれら両ネット1、2を接合すべき充填接着剤、4は合枠で上面には適宜深さと幅を有する溝5が形成されている。尚前記充填接着剤3としては、ホットメルト接着剤、プラスチックセメント、コールタール及びセメントなどが使用される。

しかして前記の両ネット1、2を接合する場合には、先ず各ネット1、2の側端部を合枠4の溝5上において重ね合わせ、次にこの重合部上から前記合枠4の溝5内に充填接着剤3を流し込むのである。この流し込み時には、接着剤3がネット1、2を透過して溝5の底部に到り、かつ接着剤3がネット1、2の上部に盛上がるべく流し込むのであり、この状態で接着剤3を固化するのである。すると重合部における各ネット1、2の夫々ストランドが接着剤3により包み込まれ、両ネット1、2は強固に接合されることになる。

尚、充填接着剤3を流し込むに際して、使用す

更にまた地面上においてネット1、2を接合する場合にも、前記ヘドロ地上において接合するときと同様に、溝5を掘ることなく丸太棒、或は竹などを用いて各ネットと地面との間に空隙を形成し、この空隙に向けて接着剤を流し込むことにより、ネットの接合を行なうようにしてもよい。尚このように空隙を形成するに際しては、必ずしも2個の浮体6、或は竹、丸太棒などを用いることなく、その1個を用いてこの上においてネットを重ね合わせ、該重合部上から接着剤を流し込むことにより、ネットの接合を行なってもよく、この場合には浮体6などと接触するネット重合部の一部において、接着剤が透過されず盛上がることがないが、前記浮体6などの両側大部分の重合部において接着剤が透過されて盛上がることもなるため、接着強度をそれほど損なうことはないのである。

更に本発明では、第4図に示す如く接着剤3の流し込み時に、接着剤3がネット重合部の下方に長く突出されるように流し込むと、ヘドロ地への

敷設時に前記ネット重合部下方に突出される接着剤3による抵抗が著しく大となって、ネットのヘドロ地上における滑り止めを確実に行ない得ることとなる。

以上のごとく本発明の接合方法では、適宜形成される空隙上においてネットを重ね合わせ、この重合部に充填接着剤を流し込み、該接着剤を前記重合部の上下両面に盛上げた状態で固化することにより、接着剤にて各ネットの夫々ストランドを包み込み、各ネットの接合を行なうようにしたので、ネットが例え接着剤により接着不能なオレフィン系樹脂により形成されていても、ネットを確実かつ強固に接合することができ、しかもその接合に際しては従来の手段に比べ非常に簡単であり従って工事現場で接合することの多い土木用ネットの接合手段として最適となるのである。

4 図面の簡単な説明

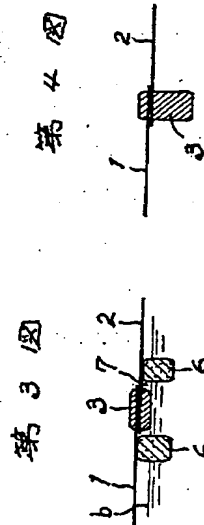
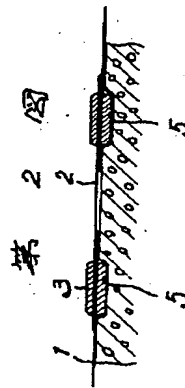
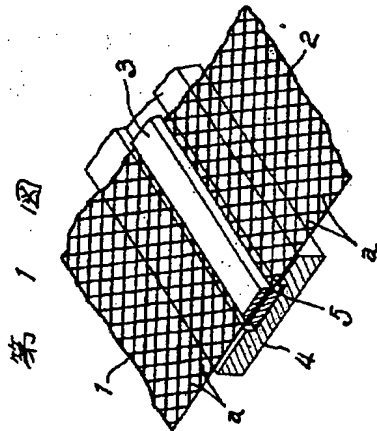
第1図は本発明のネット接合方法を示す斜面図

第2～4図は夫々他の実施例を示す図である。

1、2 ……ネット 3 ……接着剤

5、7 ……空隙

出願人 永 吉 昭 夫
同 森 井 健 治



第4図

